

# 学校管理下とは

学校管理下でけがをした場合は、日本スポーツ振興センターから災害共済給付金が支給されますが、学校管理下とはどこまでをさすのでしょうか。

## 1 授業中

学校が編成した教育課程に基づく授業を受けている時にけがをした場合が該当します。

- (1) 教科等の授業中 … 体育の授業中や理科実験中、技術で工具を使用中等。
- (2) 特別活動中 … 学活、給食、清掃、生徒会活動時が該当。
- (3) 学校行事中 … 入学式、卒業式、始業式、終業式、文化祭、合唱コンクール、大掃除、球技大会、遠足、修学旅行、学年行事等。

## 2 休憩時間中

- (1) 昼休み中のけが
- (2) 登校してから朝の会が始まるまでの時間（在校中）
- (3) 帰りの会が終わってから校門を出るまでの時間（放課後）


## 3 通学中

- (1) 通常の間路及び方法により通学する場合  
（寄り道をして間路を外れた場合は該当しない。）
- (2) 部活動や、見学、遠足などで学校以外の場所に集合または解散した場合なども通学中に準ずる。家に着くまで該当。

## 4 課外活動中

学校の教育計画に基づいて行われる課外指導を受けている時のけがが該当します。

- (1) 部活動中 … 平日の活動のみならず、土・日・祝日の活動、対外競技も含む。  
（学校長が委嘱した外部指導者による部活動は、学校の管理下と認められる。）
- (2) 林間学校中 … 出発から帰着までに起こったけがが該当。
- (3) 技能検定試験への移動中 … 柔・剣道の昇段試験、英検（ただし教師の引率のもと）
- (4) 入学試験のための移動中 … 高校入試への行き帰りの途中。  
（ただし教師の引率のもと。個人で入試に行った場合は該当しない。）
- (5) 校外の適応指導教室での指導中

 教育計画に基づくとは、4月に作成される「教育計画」や、保護者向けに発行される月間の部活動計画、職員室に掲示される週ごとの活動予定表、日報・週報への記載等があれば良い。（逆に言えば、記載がないものは認可されないということ。だから記録に残しておくのは大事なことです。）

## 学校管理下とは認められない場合

- (1) 夏季休業中等に、日直の教師が、業務の片手間に部活動の監督指導に当たる場合は、学校管理下とは認められない。つまり生徒に活動させておいて、自分は日直の仕事をしている場合は、管理下には該当しない。(2人の日直がいた場合、午前と午後に分けて、交代で日直の業務と部活動を行えば良い。)
- (2) 部活動顧問が、活動計画に無い日に活動を行ったり、届け出なく遠征に出かけたりした場合は、学校管理下とは認められない。例えば、金曜日に練習試合の申し出があつて、翌日の土曜日に急遽試合を行うことになった場合、あらかじめ提出している部活動計画と異なるため、管理下とは認められない。ただし、職員室の黒板に対外試合と書いていれば認められる。そのような書く手間を省いてはいけない。  
(しかし前日に予定を変更することは、生徒の予定やモチベーションにも関わることであり、望ましくは無い。顧問が部活動を私物化してはならない。)
- (3) 土日の部活動で、顧問が到着する前に生徒が活動を行っていた場合は認められない。  
(顧問が遅れる場合は、同僚教師に監督を依頼しておく必要がある)
- (4) 卒業式後、3月31日までの間に、生徒が任意に登校したものは認められない。  
(ただし教師が生徒を呼んでいるのであれば、学校管理下と認められる。)
- (5) 卒業式後、3月31日までの間に、進学予定校の部活動に参加し、けがをした場合は、学校管理下とは認められない。  
(高校の顧問には、まだ正式な部員では無いのだから、呼び出すのは自粛してもらいたいが、保護者の了解のもと、活動するのであれば、独自に期間限定の保険に入る必要がある。)

- 学校では、あらゆる場面でけがが予想される。教師は、予想されるけがを想定し、危険な要素を除去すると共に、子ども達にも、危険予知能力を折にふれ育てていかなければなりません。

私には、今でも心が痛む出来事があります。運動会での出来事です。部活動対抗リレーのとき、場を盛り上げようと教員チームが結成されました。女子チームと一緒に教員チームもスタートしました。事故が起こったのはゴールしたときです。

巨漢の男性教諭がゴールしたとき、そこにいた女子生徒に接触し、女子生徒は下敷きになり、ひざがすりむき、けがをしまいました。女子生徒のけがの程度は重く、医者によると跡が残るほどのけがということでした。心配した保護者とその後、何度も学校との話し合いがもたれました。訴訟の一手手前でした。女子生徒は気丈で、「大丈夫だからお父さん。」の言葉で救われました。涙が出る思いでした。あの時こうしていればと悔やまれ、今でも心が痛んでいます。

どうすれば良かったのか。まず教員チームの走り方です。一緒に走る生徒の邪魔にならぬよう、外側のコース取りをする、ゴールは外側にゴールする。それからゴール地点の砂です。ゴール地点はぬかるんでいたのも、前日に「岩瀬砂」という荒い砂を撒いていました。岩瀬砂ではなく、川砂を撒くべきでした。養護教諭も、傷を見てすぐ病院に搬送すべきでした。もっと危険を予測して配慮していれば良かったと、悔やんでも悔やみきれない出来事でした。